



ハローネ[®]

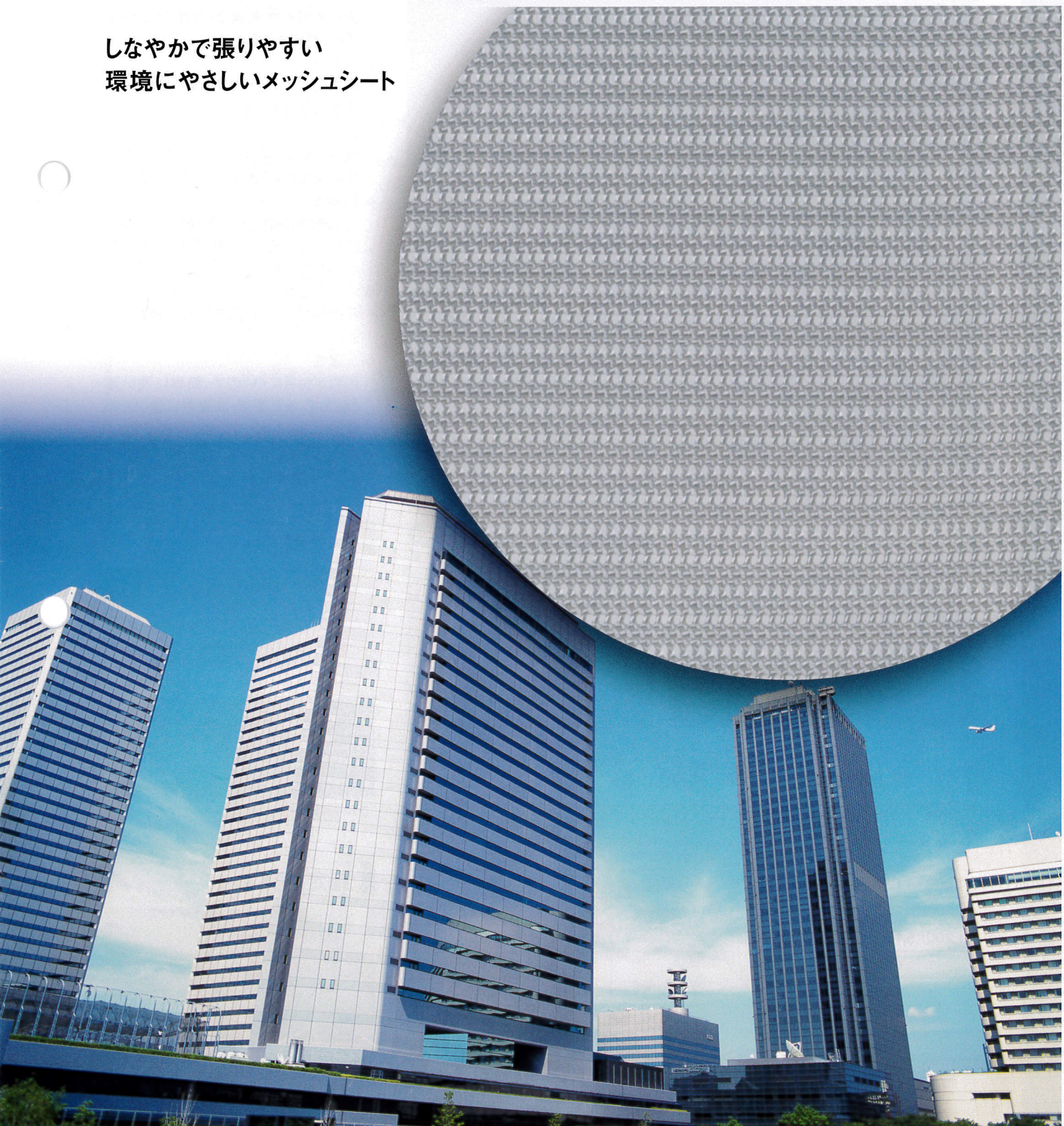
リース品

メッシュシート

販売品

[(一社)仮設工業会認定品]

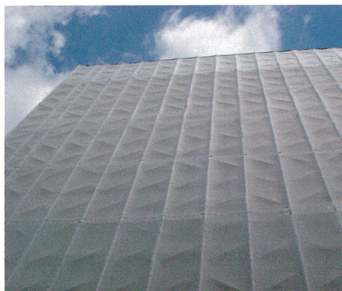
しなやかで張りやすい
環境にやさしいメッシュシート



ハローネ®

軽くてしなやか、作業性が向上するメッシュシートです。

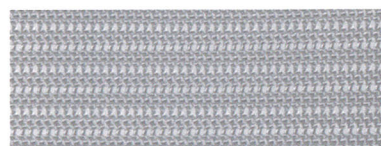
シート類



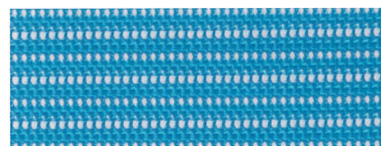
特長

- 作業性**
柔軟性が特に優れているため、シートを張る手間が大変楽で、作業のスピードアップが図れます。
- 防災性**
原糸に防災剤が練り込まれており、長期間難燃性能を維持します。
- 耐久性**
特殊なからみ織りで、従来タイプにない高い強度とタフネスを有しています。
- 耐候性**
合成繊維の中でも一番優れたテトロン高強力糸を使用し、耐候性がアップしています。
- 寸法安定性**
収縮率が小さく寸法安定性に優れています。
- 洗濯性**
汚れが付きにくいので、簡単に洗い落とせます。また薬剤・高温水に強いいため頑固な汚れも落とすことが可能です。

色見本



グレー



ブルー

寸法(mm)

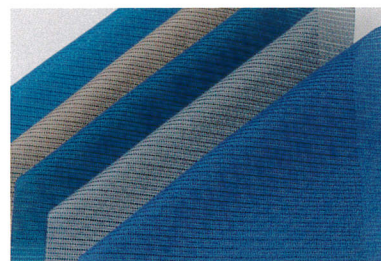
サイズ	
メートル	インチ
1,800×5,100	1,829×5,100
1,500×5,100	1,524×5,100
1,200×5,100	1,219×5,100
900×5,100	
750×5,100	
600×5,100	
300×5,100	

※特注サイズ製作致します。

規格

項目	ハローネ® (DSK-BTM-1)	
材質	東レ防災テトロン	
重量(g/m ²)	405±10	
引張強度 (kN/3cm)	タテ	2.45以上
	ヨコ	2.45以上
タフネス (kN・mm)	タテ	294以上
	ヨコ	147以上
防災登録番号	C2140003	
充実率	0.9	
色	グレー・ブルー・他	

指定色見本



環境を守り現場にやさしいハローネ®

環境の保護や資源の有効活用が求められている現在、仮設資材についても素材などの見直しが進められています。

大嘉産業は時代の要請に即応し、東レ高強カテロン糸を100%使用した養生メッシュ・ハローネ®を開発いたしました。

塩化ビニール樹脂を一切使わず、強さ、軽さ、しなやかさを実現。防災剤を練り込んだ原糸による安定した防災性を備え、建築現場をソフトな印象で包みます。

現場使用例



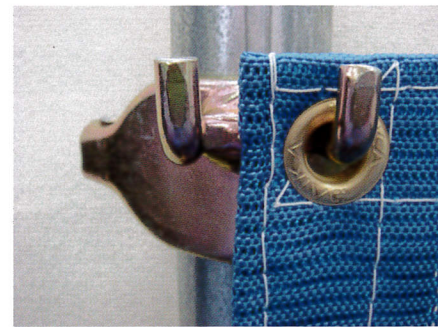
仮囲い使用時



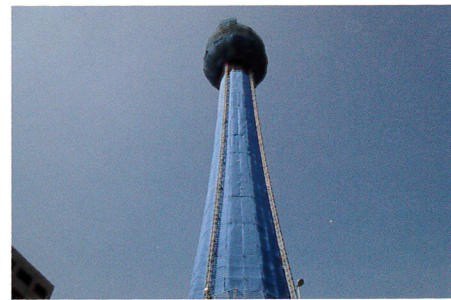
特注品使用時



近隣に安心感を与えます



メッシュクランプ使用時



隙間の目隠しに、防犯にも効果大

使用基準

1 | 適用

この基準は(一社)仮設工業会の認定メッシュシートの使用方法について定める。

2 | 取付方法

メッシュシートを鋼管足場又は鉄骨の外周等に取り付ける場合は、次によるものとする。

- (1)メッシュシートを取り付けるための水平支持材は、原則として垂直5.5m以下ごとに設けること。(図-1参照)さらに鉄骨外周等に用いる場合、垂直支持材の水平方向の取付間隔は、4m以下とすること。(図-2参照)
- (2)メッシュシートと支持材の取り付け及びメッシュシート相互の取り付けは、メッシュシートの縁部で行うものとし、緊結材を使用して、すべてのはじめについて、容易にはずれないように行うこと。
- (3)緊結強度が0.98kN以上のものを使用すること。
- (4)出隅部、入隅部等の箇所は、その寸法に合ったメッシュシートを用いてすき間のないよう取り付けすること。

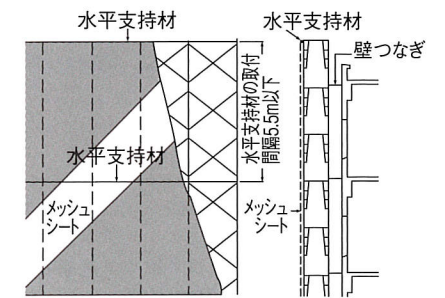


図1 鋼管足場への設置例

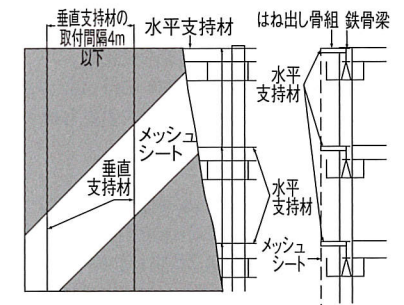


図2 鉄骨外周部等への設置例

環境への思いやりを深め、脱塩ビを実現。

ハローネ®は、東レ高強カテロン糸を100%使用。

塩素ガスやダイオキシンなどの公害発生源と考えられている塩化ビニール樹脂を一切使用していません。

ハローネ®は、素材の風合いを活かした織技術によって、養生メッシュに求められている強度や機能性を実現しています。

あらゆる状況下にもかわらぬ防災性能。

ハローネ®は、テトロンに防災剤を練り込んだ防災原着糸を使用しています。後加工により防災性を付加した塩ビ製品と異なり、どんな状況下においても防災性能は変わりません。

作業性をアップする、軽さ、しなやかさ。

ハローネ®は、素材をそのまま利用しているため大変しなやかです。防災原着糸の特徴を活かし、従来の塩ビタイプメッシュシートよりも軽量化が図られています。もっとも危険率が高いとされている建設現場における高所での架け外し作業が、安全かつ迅速に行えます。しかもしなやかな風合いにより、寒い時期でも硬化することがなく、スムーズに取り扱うことができます。

ハローネ®は、安全性を追求する現場のご要望にお応えします。

過酷な現場作業に応える強さと耐久性。

メッシュシートは現場作業において擦れ・よじれなどが頻繁に発生します。特殊なからみ織りを採用したハローネ®は、強度に優れ摩擦や折れに強いタフネスを発揮します。また、気温による柔軟性の変化が少ないため、素材の性質も年間を通して安定しています。

美しいフォルムによる美観の創出

特殊顔料を使用したハローネ®は、優れた耐候性を備えています。汚れがつきにくく、ついた汚れも簡単に洗い落とせるので、製品の維持管理が容易です。いつまでも安定した寸法を保つため、建築物のフォルムに沿って美しく包むことが可能です。業界において求められている美観維持に対して、ハローネ®はこれまでにない効果を発揮します。

付属商品



メッシュクランプ



結束紐

- 長さ/60cm
- 1束 100本

3 | 管理

メッシュシートの使用中は、次の(1)から(5)までにより点検、取り替え等の措置を講ずるものとする。

- (1)使用期間が1月以上である場合には、緊結部の取付状態について、1月以内ごとに定期点検を実施すること。
- (2)大雨、強風等の後では、メッシュシート、水平支持材等の異常の有無について、臨時点検を実施すること。
- (3)メッシュシートの近傍で溶接作業が行われた場合は、その作業の終了後、すみやかに溶接火花又は溶接片による網地等の損傷の有無について調べ、損傷のあるときは、これの正常のものと取り替え又は補修を行うこと。
- (4)資材の搬入等による必要のため、メッシュシートの一部を取り外した場合は、その必要がなくなったときは原状に復しているかどうかを点検すること。
- (5)飛来・落下物、工事中の機器等の衝突により、メッシュシート、支持材等が破損したものは、これの正常のものと取り替え又は補修を行うこと。

4 | 使用上の注意

メッシュシートは、水平に張って使用する墜落防止用の安全ネットとして使用しないこと。

11 適用

この基準は、主として建築工事現場における足場等の仮設構造物の外側構面に設け、作業側からボルト等の物体が足場等の構面をこえて落下するのを防止するために用いるメッシュシートについて適用する。

12 定義

本基準でいうメッシュシートとは、難燃性の繊維又は防災加工を施した繊維を網状に編織したもの(網地)、もしくは合成繊維を網状に編織したもの(網地)に防災加工を施したものを縫製又は融着し、かつ、たて、よこ各辺の縁部にはとめ等の装着部を有し、鋼管等に取り付けできるものをいう。

13 材料等

メッシュシートの網地の材料等は、次によるものでなければならない。

- (1) メッシュシートの網地及び縫込みテープ等は次によること。
 - (ア) 合成繊維であって、かつ、難燃性のもの又は防災加工を施したもの。
 - (イ) 日本工業規格A8952(建築工事用シート)に定める表1の防災性を有するもの。
- (2) はとめの材料は、強度、性能に均一性を有し、著しい経年劣化をきたさないもので、かつ、耐蝕性を有すること。
- (3) 縫込みロープを用いるものにあつては、これがナイロン等の合成繊維であること。

14 構造等

1. 構造

メッシュシート等は、次の各号に定めるところに適合するものでなければならない。

- (1) メッシュシートの網地は、切れ、ほつれ、ゆがみ、織りむら等の使用上有害な欠点があつてはならないこと。
- (2) メッシュシートの各辺の縁部は、はとめ等が容易に外れない構造のものであること。
- (3) 装着部にはとめを有するメッシュシートにあつては、次によること。
 - (ア) はとめの位置は、ピッチ35cm以下のもの。
 - (イ) はとめ金物の穴の大きさは、内径10mm以上のもの。
 - (ウ) メッシュシートの端部からはとめの穴の中心部までの距離は1.7cm以上のもの。

2. 仕上がり寸法

メッシュシートの標準仕上がり寸法は、次表によるものとする。なお、はとめ以外のものを装着する方式のもの仕上がり寸法は、メッシュシート上下両端装着部の鋼管等に取付ける点の間隔とする。

幅(cm)×長さ(cm)	幅(cm)×長さ(cm)
183 $\left(\begin{smallmatrix} +2 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$ ×510 $\left(\begin{smallmatrix} +5 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$	180 $\left(\begin{smallmatrix} +2 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$ ×480 $\left(\begin{smallmatrix} +5 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$
180 $\left(\begin{smallmatrix} +2 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$ ×510 $\left(\begin{smallmatrix} +5 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$	183 $\left(\begin{smallmatrix} +2 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$ ×340 $\left(\begin{smallmatrix} +4 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$
183 $\left(\begin{smallmatrix} +2 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$ ×480 $\left(\begin{smallmatrix} +5 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$	180 $\left(\begin{smallmatrix} +2 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$ ×340 $\left(\begin{smallmatrix} +4 \\ -1 \end{smallmatrix}\right)$

◎認定合格証



15 試験

試験の種類は、網地の引張試験、はとめ部の引張試験及び落下試験の3種類とし、それぞれ次表の左欄に定める試験方法による試験を行った場合に、それぞれ同表の右欄に定める強度等を有するものとする。

試験方法	強度等
<p>[5-1] 網地の引張試験</p> <p>網地の引張試験は、網地より取り出した幅3cmの供試片を、つかみ間隔が20cmとなるように試験機にかけ、引張速度が20±1cm/minとして試験を行い、引っ張り強さ及び伸びを求める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 引張強さは、1.47kN以上であること。 2. 引張強さ(kN)と伸び(mm)との積の値は、68.6kN・mm以上であること。(上記の値は、たて方向、よこ方向のうち弱い方向の値をいう。)
<p>[5-2] はとめ部の引張試験</p> <p>次図に示すようにメッシュシートの縦方向及び横方向のそれぞれについてメッシュシートの縁から30cmのところではとめがほぼ中央となるように約30cmのつかみ金物で固定して徐々に引っ張り、はとめが網地から外れるか、はとめ周辺の網地又は縫目が破れるときの荷重の最大値を測定する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 荷重0.49kNのときまでに外れ、破れ等の異常がないこと。 2. 引張荷重の最大値が0.98kN以上であること。
<p>[5-3] 落下試験</p> <p>別図に示すようにメッシュシートを、水平に対し30°の傾斜を有するフレームわくに取り付け、同フレームわくの中点の縁面レベル直上4mから外径48.6mm、肉厚2.5mm、重量4.8kgの鋼管を垂直状態で落下させる。</p>	<p>落下体がメッシュシートを貫通しないこと。</p>

別図 メッシュシートの落下試験

